



# EXTRA, EXPERT AND... EXPRESS...

2007 VOL.  
**2**

### パワーに勝るヨシムラ+渡辺篤か!? 速さの徳留和樹か!? 最後に混戦を抜け出すのは誰だ!!

Photo by H.Wakita(G)



予選2番手 / #9 中須賀克行 YSP&PRESTOLレーシング



予選3番手 / #4 秋吉耕佑 WINs SUZUKI R.T

## JSB 1000

ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

●予選日:天候/晴れ 路面/ドライ ●決勝コースイン/12:35 スタート/12:50(17周)

伝統の鈴鹿2&4レースは、フォーミュラ・ニッポンとの併催となる。以前は、タイヤカスなどの影響でグリップ不足に悩まされることが多かったが、ここ数年は、そんな状況も改善され、不満を言うライダーもいなくなってきている。

衝撃的な速さを見せ、開幕戦を制したヨシムラ+渡辺篤が、今回も注目されたが、予選では、ニューマシンのセットアップに集中。決勝を見沿えた走りでも2分8秒882を記録し2列目スタートとなった。フルモデルチェンジしたGSX-R1000は、サスペンションも一新され、ヨシムラのチューニングにより、パワーアップされたエンジンは、間違いなく現在のJSB1000クラスで最速と言っていいだろう。開幕戦では、余りあるパワーを抑える方向でドライバビリティを優先し勝利を手にした。今回も、パワーを路面に伝える部分で苦勞しているようだ。

そんなヨシムラの苦勞を尻目に、予選で目が覚めるような速さを見せたのが徳留和樹だった。徳留は鈴鹿を得意としており、一昨年の鈴鹿8耐では、8秒2というタイムをたたき出している。今回も8秒は狙っていたが、それを上回る2分7秒882をマークし、JSB1000クラス初ポールポジションを獲得した。トレーニングもハードにし、自分の意識を高めて鈴鹿入りしたという徳留。初優勝に向けて気合いが入っている。

アベレージで群を抜いているのがセカンドグリッドからスタートする中須賀克行。2分9秒台前半で周回できており、東コースでの速さはピカイチ。アグレッシブなライディングスタイルは必見だ。

フロントロウ最後の3番手グリッドの秋吉耕佑も虎視眈々と優勝を狙っている。秋吉のバイクは、市販パーツを組み込んだものながら、2分8秒521を記録。

(中面へ続く)

### TIME TABLE

※タイムテーブルは、変更されることがあります。

08:00 - 08:30	JSB1000 ウォームアップ走行
08:40 - 09:10	フォーミュラ・ニッポン フリー走行
10:45 -	F3第4戦 決勝レース(17Laps)
11:00 -	インテグラ 決勝レース(17Laps)
11:40 - 12:15	ピットウォーク
12:35 -	JSB1000 スタート進行(コースイン~選手紹介)
12:50 -	JSB1000 決勝レース.....17Laps
14:30 -	フォーミュラ・ニッポン 決勝レース(43Laps)
17:00 -	サーキットクルージング(2輪体験走行)

## MFJ SUPERBIKE

ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

### 楽しみ方いろいろ。MFJ SUPERBIKEの情報満載

2007年もGAORA(CS放送)で全戦放映!! 地上波ローカルTV局ではダイジェストを放映!

レース速報はMFJオンラインマガジン [mfj.or.jp](http://mfj.or.jp)

情報満載のファンサイト [superbike.jp](http://superbike.jp) へ!!

# JSB1000 CLASS STARTING GRID

1	2'07.882 54 徳留 和樹 CBR1000RR	2	2'08.527 9 中須賀 克行 YZF-R1	3	2'08.521 4 秋吉 耕佑 GSX-R1000
2	2'09.493 3 山口 辰也 CBR1000RR	5	2'08.882 76 渡辺 篤 GSX-R1000	6	2'09.632 83 森脇 尚護 CBR1000RR
3	2'09.122 10 亀谷 長純 CBR1000RR	8	2'09.643 81 阿部 典史 YZF-R1	9	2'09.529 48 手島 雄介 CBR1000RR
4	2'10.481 75 大崎 誠之 YZF-R1	11	2'09.737 39 酒井 大作 GSX-R1000	12	2'10.545 7 辻村 猛 CBR1000RR
5	2'09.829 73 安田 毅史 CBR1000RR	14	2'10.654 87 柳川 明 ZX-10R	15	2'11.414 775 野田 弘樹 CBR1000RR
6	2'11.459 30 波多野 祐樹 GSX-R1000	17	2'11.968 53 今野 由寛 GSX-R1000	18	2'11.948 71 津田 一磨 CBR1000RR
7	2'13.245 23 本田 晃司 GSX-R1000	20	2'12.093 88 武田 雄一 CBR1000RR	21	2'13.380 6 出口 修 CBR1000RR
8	2'13.068 11 須貝 義行 CBR1000RR	23	2'13.673 50 岩田 悟 CBR1000RR	24	2'13.552 21 野寄 真二 CBR1000RR
9	2'13.965 25 鈴木 慎吾 CBR1000RR	26	2'13.814 17 山中 正之 CBR1000RR	27	2'14.040 33 松井 秀樹 CBR1000RR
10	2'13.922 57 石川 朋之 GSX-R1000	29	2'14.896 41 宇佐見 保弘 YZF-R1	30	2'14.029 65 水谷 勝 GSX-R1000
11	2'15.179 248 深見 貴広 YZF-R1	32	2'15.063 85 古川 力也 CBR1000RR	33	2'15.719 36 山田 直樹 GSX-R1000
12	2'15.246 52 民辻 啓 GSX-R1000	35	2'15.916 24 羽田 庄平 ZX-10R	36	2'15.289 37 大西 敬紀 GSX-R1000
13	2'16.138 42 安達 光司 YZF-R1	38	2'15.367 333 鈴木 大五郎 GSX-R1000	39	2'16.197 40 竹見 升吾 YZF-R1
14	2'15.670 16 川瀬 裕昌 GSX-R1000	41	2'16.683 704 中村 知雅 CBR1000RR	42	2'16.956 45 小林 敦之 CBR1000RR
15	2'17.631 34 鷺見 洋介 GSX-R1000	44	66 久積 基宏 GSX-R1000		

まだマシンの基本セットが出ていないと語るが、腕で何とかしてしまうのが秋吉のすごいところ。レースでは、アッと驚く走りを見せてくれそうだ。

ミシュラン勢で一番ノレているのが亀谷長純だ。事前テストで転倒を喫し、右足の小指にクラックを入れてしまったが、その次の日にトップタイムをマーク。今回もタイム順でいけば5番手だっただけに、トップ争いに加わっていききたいが、序盤のペースが課題となる。

鈴鹿でのレースは、2003年のMotoGP以来となるノリックは、慣れない環境にやや戸惑っている。マシンの方向性に悩み、クリアラップをうまく取れなかったと言う。しかし、鈴鹿では、ミラクルを何度も起こしてきたノリックだけに、決勝での走りに期待したいところ。今回もロケットスタートを決め、トップ争いに加わりたい。

開幕戦で表彰台の両脇を占めた山口辰也、森脇尚護のモリワキ勢。二人とも今一つという表情を見せていたが、速さは十分持っている。レース終盤まで、いいポジションをキープし、最後に勝負したいところだろう。

JSB1000クラスのレーススタートの予定時刻は、12時50分と、一番路面温度が高いときとなる。開幕戦で渡辺は、固めのタイヤをチョイスし、レース後半に追い上げ、前をいくライバルたちを抜き去って優勝を果たした。今回も同じパターンでくるのか？ レース序盤の動きに注目したい。



**POLE POSITION** 徳留 和樹 2'07.882

『先週の鈴鹿テストでロングランのテストは非常に良かったんですが、一発のタイムとしては2分9秒しか出ていませんでした。今回の予選も決勝のセットですと走っていて、8秒台に入ればいいかなと考えて、最後にタイヤを替えたら(タイムが)出た、という感じ。気持ちが入りすぎなかったのが良かったかもしれせん。(開幕戦)もてぎが終わったあとで、ホンダやチームからいろいろとアドバイスをもらって、自分でも今週末までみっちりレーニングして、気持ちを高めて得意の鈴鹿で結果を残せなかったら...と自分の気持ちを変えて臨みました。ポールポジションは自信になるし、ロングランも出ているので、レース後半に勝負出来ればと思います』

**2ND POSITION** 中須賀 克行 2'08.527

『先週の鈴鹿テストは実はあまり良くなかったけど、金曜日からタイムが上がってきました。今回はセッティングよりもまずはマシンと自分の身体を合わせることに集中し、それがビタリと合った結果ですね。06年の最終戦の予選タイム(2'08.512)が目標でしたから。徳留クンの7秒に近づきたかったんですが、ちょっと無理でした。自分としてはアベレージが良いので、予選の一発のタイムはあまり気にしていません。レースは混戦になって、トップ集団は大きくなるでしょう。逃げるのは難しそうなので、常に先頭集団にいて、最後に勝負を賭けたいと思います。もてぎが良くなかったので、今回は挽回したいですね』

**3RD POSITION** 秋吉 耕佑 2'08.521

『今シーズンはMotoGPのテストとレースを予定していて、全日本に出る予定はなかったんですが、メーカーからの依頼で体制も一新してのフル参戦になりました。いわゆる街のオートバイ屋さんの市販キット車ですが、チームのがんばりと技術でここまで走れたのはすごく光栄ですね。キットを最大限活かそうとする姿勢が凄いいい。前回のもてぎではほぼノーマルでしたが、今回はレースができるという感じです。ロングランはまだマシンが決まっていなくていいのですが、レースではアベレージタイムを高めにもっていき、混戦の中で面白いレースができればいいですね』